

八尾市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅 ニュースレター

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

NEWS LETTER

発行部数 3,000 部

Vol. 13

2012年7月発行

5・6月の講座

伝統野菜と大和川 & 中世文学と八尾

旧大和川を歩く
～ぶらり長瀬川編 Part 2～

幕末・明治維新展のみどころ



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

展示のご案内



夏季企画展

「書画に見る植田家の幕末・明治維新」

2012年7月5日(木)―9月2日(日) ※休館日はP15をご覧ください

◇前期(7/5～8/5)・後期(8/6～9/2)一部展示替え

新しい時代への不安と期待が入り混じる、幕末・明治維新时期。植田家の人びとは、その時代をどのようにとらえ、どのように過ごしていたのか。

維新の英雄たちが華々しく活躍する舞台裏で、様々な人たちと交流をもち、地域の政治家、知識人として、新時代を切り開こうとした植田家の痕跡を、残された書画類から読み取ります。

Contents

- 4 | 5・6月の講座
伝統野菜と大和川
& 八尾と中世文学
- 6 | ボランティアガイド養成講座
開 講
- 7 | 企画展「書画に見る植田家の幕末・明治維新」のみどころ
維新英雄の横顔
- 8 | まちあるきイベント
「旧大和川を歩く～ぶらり長瀬川編 Part2～」
(2012年4月21日)
- 10 | 研究の一と：ファイル3「古曾部焼」
- 11 | 出前授業&見学レポート
- 12 | なにわの伝統野菜栽培日記⑬
- 13 | 植松のまち・ひと 一第7回
- 14 | コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (七)」
- 15 | 旧植田家住宅のご案内



表紙写真

「木綿の花 - 8月下旬 -」

かつて八尾は河内木綿の一大産地でした。河内木綿は江戸から明治の初め頃まで大坂の産業を支えました。5月頃に植えられた木綿は、8月頃に黄色い花を咲かせ、やがて9月を過ぎると白い実綿が吹きだします。現在、旧植田家住宅でも栽培しています。



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

◆講座「なにわの高品質野菜誕生

の立役者 “大和川の付け替え”

今年度最初の講座は、なにわの伝統野菜
応援団の団長で、農学博士の森下正博氏
に「野菜」についてお話しして頂いた。旧植
田家住宅でもおなじみの野菜だが、何やら
一見関連のなさそうな「野菜と大和川」と
いうテーマ。実は今日の私たちの食卓にま
でつながる、深い関わりがあった。

現在お店などに並ぶ野菜は、純日本産の
ものが少なく（四〜五種くらい）、元は海
外から日本に入ってきたものを長い年月を
かけ、各地で根付かせたものだそう。そ
のため、地域によっては同じ種しゅの野菜でも、
形や食感、味などに違いがある。例えば茄
子は、西の方では長茄子であるが東に行け
ば卵形のもが主流であるとか、蕪は信州
から東の方は西洋型で西では日本型のもの
が栽培されているなど、同じ国内でも様々

な違いがある（ネギを例にとってみてもそ
の違いが良くわかる）。

そこで、独自の進化を遂げた野菜の例と
して「なにわの伝統野菜」が取り上げられ
た。かつて「天下の台所」と呼ばれた大坂
の地には、実に多種多様な野
菜が在った。現在は、戦後の
品種改良や農地の宅地化、食
生活の変化などによってほと
んど栽培されなくなったが、
地域独特の歴史や伝統を持つ
高品質な野菜であるという。
この高品質というのは、いわ
ゆる「食感が良くて形のそろっ
たきれいな野菜」という意味
ではない。実際、地域特有の
伝統野菜は、そろいが悪く、
味も様々であるというのが基本だそう。で、
その代わりに種しゅが強く、また色々な料理に
使えるという意味で高品質なのである。

なにわの伝統野菜は、水源に恵まれた大



坂ならではのものです。特に大和川の付け替
え以降、大きく栄えた。その要因として、
付け替え後の新田開発によって土壌が開か
れたことがある。大和川の土は柔らかいた
め収穫に適していたり、砂の多い土は害が
出にくいそう。また連作が
可能となったり、大和川の水
運による流通の便に加えて、
大坂独自の多様な文化と人び
と（地域性）によって“進化”し、
“深化”していったという。

現在、「なにわの伝統野菜」
を復活させようという動きが
大阪府内で起こり、現時点で
十七種類の野菜が認証されて
いる。また町おこしや経済・
産業の発展にも寄与し、食品
の開発、グッズの販売、イベントなども開
催されている。活気ある大阪の文化が、肥
沃な土壌と水源、そして多様な食文化に支
えられてきたことを考えると、今日の私た
ちの食のあり方についても、もう一度見直
さなければならぬだろう。

5月 伝統野菜と大和川

（旧植田家住宅学芸員 安藤亮）

◇文学に見る八尾「八尾と中世文学

— 聖徳太子伝の世界から —

毎年恒例となっている「八尾再発見！文学に見る八尾」。今年は今東光をいったんお休みして、関西大学から大島薫教授（日本中世文学）をお招きし、中世文学の中に登場する八尾についてお話しいただいた。

今回の講座のポイントを一言でいうと、「中世の八尾は先進地域だった！」ということだろう。古臭い慣習の都（大和）に対して、新しい気風を積極的に取り込んでいった八尾（河内）という構図だ。講座の冒頭で出てきた、伊勢物語の「河内の女」は田舎くさいダメ女ではなく、自立したしっかり者の女主。「大和の女」は慣習に従う古典的なお嬢様ということになるだろうか。まあ、どちらが好みかは人によるが……と、こんな話をしていると誌面が足りなくなってしまうので本題に戻そう。つまり、歴史のメタ



6月 八尾と中世文学

ファーとしてこの文学をとらえた時、「男」の「河内の女」への冷たい視線は、肥沃な土壌を持ち、新たに経済力を持つとうとして新興の土地に住む人びとへの都の人びとの気持ちではなかったかということだ。

また、こちらはよく言われていることだが、聖徳太子の伝記から考えられる太子信仰は旧来の神道と新しく入ってきた仏教のぶつかり合いの中で生まれたものである。そしてその一大決戦地として名を残すのが八尾だ。そう見ると確かに、河内という地域は「時代が変わるエネルギーを養う土壌となった」と大島氏が語る通り、先進地域である。

よくよく考えてみると、中世の河内が現在の大阪府の中で先進地域だと言うのは当たり前の話だ。聖徳太子の時代、今の大阪

市内の大半はまだ海に沈んでいて、東から西へ平野が広がっている最中なのである。そして、文化というものは古い土地から新しい土地へ伝播していくことが多い。つまり、文化も東（奈良）から西（河内）へ伝わっていくのが自然な流れなのだ。「なるほど！」と納得された河内人の皆さまは、自分たちの住む土地が大阪の文化の母体となっていることに、ぜひとも誇りを持っていただきたいものである。

さて、最後に個人的な感想だが、伊勢物語の「男」と「女」の話は実に面白く聞かせていただいた。世の中には基本的に男と女しかない。しかしながら、大半の男には女心がわからない。逆もまた然りである。文学には歴史のメタファーだけでなく、男と女のケーススタディも含まれている。そんな当たり前(?)のことも貴重な「再発見」のひとつになった。

（旧植田家住宅学芸員 宮元正博）

ボランティアガイド養成講座

開 講

開館四年目を迎えた安中新田会所跡 旧植田家住宅には、これまでたくさんの方々が見学に訪れています。中でも、事前に予約があった団体や学校園の見学・行事では、スタッフが建物のガイドを行なっており、好評を頂いています。

旧植田家住宅では五月から、そのガイドを務める「ボランティアガイド」を養成するための講座が開講されています。今年度の募集はすでに終了しましたが、全四回の講座と各イベントに参加することで、ガイドに必要な技術や知識、心得などを学んでもらいます。

実際にお客さんを案内するのは、講座の終了する九月以降の予定で、現在、申し込みがあった二名の受講生とともに講座が進行しています。ここでは、その様子を少しだけ、お伝えしたいと思います。

第一回 五月十六日（水）

養成講座の第一回目は、ガイダンスの後、「新田開発と植田家」の講義がありました。大和川付け替えの歴史から新田開発までの流れと植田家の歴史を理解してもらい、建物も見学。本当にガイドができるのだろうかと受講生から不安の声もありましたが、楽しんで挑戦してください。



第二回 六月二十日（水）

第二回目は、一級建築士の平谷宗隆さんを講師に「旧植田家住宅の建造物」のお話がありました。ガイドに必要な古民家の知識だけでなく、たくさん建物やそれを取り巻く環境などについても触れられ、スタッフも興味深く聞いていました。その後、建物を見学しながら、知識の確認と案内のポイントなどを押さえていきました。



第三回 七月十一日（水）

「ちよつと昔の道具」をテーマに、土蔵一と主屋の展示品（民具類）を順番に確認し、道具の使い方などを学びました。知っている物でも、注意深く見ることで、いつもと違う発見がありました。また、企画展を少しだけ見学した後、次回の「修了検定」についての説明があり、第三回は終了しました。



養成講座では、その他旧植田家住宅で開催される講演・講座やイベントに参加してもらい、施設の取り組みについても知ってもらうなど、幅広く柔軟に対応できるボランティアガイドの養成を目指しています。次回はよいよ最終回となる「ボランティアガイド修了検定」が行なわれます。短期間でしたが、これまでに習得した知識や技術をフルに発揮してもらいたいと思います。九月以降には旧植田家住宅で活躍されていることを願います。そしてみなさまのご来館もお待ちしています。

維新英雄の横顔

今回の企画展は、幕末・明治維新期の植田家の人びとの動向を、書画や書籍から探ってみようというのがテーマになっています。企画展担当者としては、もちろんそこを見てほしいわけですが、ここは少し脱線して、有名人の作品についてのお話をしてみることになります。というのも、その時にその人物がどういう立場で何を考えていたのかを想像しながら作品を見てみると、少し違った人物像が浮かび上がることがあるからです。

たとえば、勝海舟の書は陶淵明という中国の詩人の「きんきよらいのじ 歸去来辞」の一節です。前半の「木欣欣以向榮 泉涓涓而始流」は、「木は活き活きと生い茂り、泉はちよるちよると流れ始める」という、生命の始まりと、



勝海舟

若々しさにあふれた言葉ですが、「羨萬物之得時 感吾生之行休」と続きます。「万物が時を得る中で、自分の命が終わりに向かっているのを感じる」という、後半部分こそ海舟の胸中を如実に示しているように感じられてなりません。

木戸孝允（桂小五郎）の作品は明治一〇年（一八七七）のもの、つまり、木戸が亡くなった年のものです。文明開化を推し進め、古い制度の解体に力をそそいだ木戸

は、新時代に入っても悩みが尽きず、精神を病んでいたときさえいわれています。「冷淡生涯（れいたんせいがい）」という言葉は、一見するとそんな木戸の一生を端的に表した言葉にも思えますが、実はこの言葉は「あつさりとして執着心がない身の上」という意味なのです。そう考えると、死の間際、木戸は諦観の域に達していて、世の中の煩わしさから解放されていたのではないかと、とも思えます。

すべては推論にすぎませんが、人が何かを残すとき、そこには何らかの思いが込められます。幕末・明治維新时期に英雄と呼ばれた人たちの作品からは、人間臭い横顔が浮かぶ気がするのですが、いかがでしょうか。

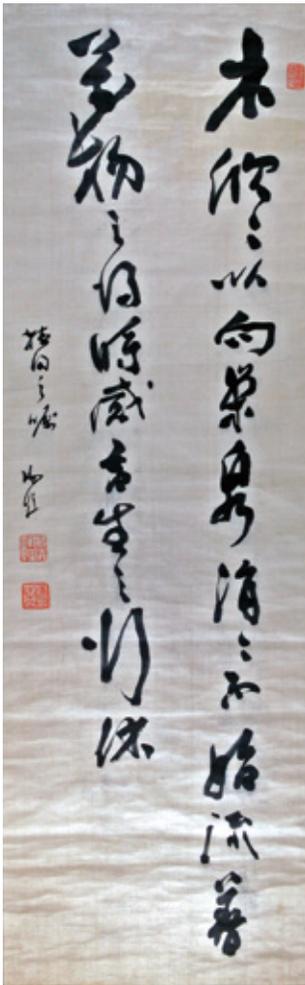
学芸員 宮元正博

※勝海舟の書《陶淵明詩「きんきよらいのじ 歸去来辞（第三段）》は、前期（8月5日まで）の展示です。



木戸孝允（桂小五郎）の扁額《冷淡生涯》

勝海舟の書
《陶淵明詩「きんきよらいのじ 歸去来辞（第三段より）》





⑤八尾高校のユーカリの木
明治28年(1895)頃、初代校長の坪井仙次郎氏が植樹されたものとされる。当時は30数本植樹されたが、現存するユーカリの木は、長瀬川沿いの正門横にあるもの1本のみで、樹齢は110年を超え、八尾高校のシンボルともなっている。



⑥慈願寺裏水路
長瀬川の水を引いた水路で、八尾寺内町の環濠だったと思われる。シジミやタニシがいる小川で、底面が土のままですら自然な水路が残る。



⑦常夜燈・しんばし
常夜燈一幕末に八尾寺内町の西端に建てられたもの。「しんばし」跡ー八尾寺内町の環濠に架かる橋。近年どちらも少し場所が移動している。



⑧八尾浜・本町橋
八尾側を八尾浜、久宝寺側を船着場という。大坂や淀へ年貢米などを運び出し、大坂からも物運んできた。ここに架かる本町橋は、久宝寺寺内町と八尾寺内町を結び、かつては「どばし(土橋)」と呼ばれ、土の橋だった。付け替え前は橋がなく「船渡し」であった。金比羅灯籠は水運業につく人々が安全を願い建てた。



⑨レンガ倉庫
1980年代くらいまでは、長瀬川沿いにレンガ造りの工場や倉庫が多く見られたが、現在は、数棟が残るだけになっている。



⑩堤跡段差
旧大和川の西側の堤跡の段差(坂)。このあたりは、随所に堤跡の段差が見られる。



⑪寺井戸
天保14年(1843)の銘があり、村の飲み水をまかなった。村人は水代として、1軒あたり年1升あての米を御坊(顕証寺)に納めた。



⑫麟角堂跡
麟角堂は、戦国時代の久宝寺城主・渋川満貞の創建といわれ、堀川屋敷に諸国の学者を招き、講筵(こうえん)を設けたことに始まる。大正2年(1913)に安田覚三郎が再復興し、同11年(1922)には私立学舎の認可を受け、漢学の講義を開いたこともあった。

4月21日(土)、まちあるきイベント「旧大和川を歩く〜ぶらり長瀬川編 Part2〜」がありました。同イベントは、昨年11月に行なわれた「ぶらり長瀬川」(JR志紀〜JR八尾駅)の続編で、今回はJR八尾駅から久宝寺寺内町までのコースを参加者・スタッフあわせて12名で歩きました。今回も案内を北村茂章さんと原多摩樹さんをお願いし、史跡や名勝、おすすめスポットなど約20カ所を散策しました。

朝9:15にJR八尾駅南口を出発し、まずは旧大和川の堤跡へ。同じく堤跡だという「八尾高校の狐山」にも特別に登らせて頂き、天井川だった旧大和川の高さを体感しました。

その後は大和川付け替え前後のくらしの様子が見える水路や橋、新しい建物、隠れた名所などを紹介してもらいながら歩くと、時間はあっという間に過ぎていきました。

11:50「まちなみセンター」に到着し解散となりましたが、おまけとして、帰りの駅までの道中、顕証寺などにも立ち寄りました。次回まちあるきは「玉串川編」を予定。

まちあるきイベント 旧大和川を歩く

～ぶらり長瀬川編 Part 2～

宝永元年（1704）の大和川付け替えによって新田開発された旧川筋には、古いものから新しいものまで数々の史跡や名勝、名所が残されています。その一部を今回のまちあるきのコースとともにご紹介します。



①堤跡段差
旧大和川の堤跡の段差。久宝寺川（現長瀬川）がここで大きく北向きに曲がっている。



②竜華（龍華）橋
大和川付け替え以降にでき、橋の親柱が、JR八尾駅南側の道標に利用されている。



③八尾高校の狐山
旧大和川の堤跡が残ったものといわれている。かつて日高大神が、祀られていたが渋川神社に合祀されている。



④八尾教会
八尾で唯一のW.M. ヴォーリスが手がけた教会建築。ヴォーリスは、明治終わりから1960年代まで日本で数多く西洋建築を手がけた建築家。教会建築や大学の建物（同志社・関西学院・神戸女学院など）、洋館（住宅や山荘）などがある。



研究 のーと

Investigation
Note



【写真1】
《三島写徳利》(2点)
(左:底の陶印部分)



【写真2】《直入詩画茶碗》

ファイル3

こそべやき

「古曾部焼」

関西大学大学院文学研究科

谷口 弘美

旧植田家住宅には多くの陶磁器がのこされている。その中から、今回は四点の古曾部焼を紹介したい。

古曾部焼は、江戸時代後期に古曾部村(現・大阪府高槻市)の五十嵐新平が開窯してから、その後四代に渡って明治時代末期頃までつくられた「やきもの」である。主な製品は日常雑器であった。

まずは《三島写徳利》(二点)を見てみよう(写真1)。古曾部焼の特徴として、名品の姿形を写しとる「写し物」があり、代表的なものに朝鮮半島・高麗茶碗を写した三島写や伊羅保写がある。《三島写徳利》もこの写し物のひとつで、底の陶印から三代信平の作と判断できる。三代信平は、俳諧や書を嗜み、句会や茶会を催した風流人であった。

それをうかがわせるのが《直入詩画茶碗》である(写真2)。この茶碗は、明治初年、還暦祝いの配り物として、文人画家の田能村直入(たのむらちよくにゅう)から受注した一千個の内のひとつである。植田家もまた、多くの文化人と交流があったことがわかっているが、《直入詩画茶碗》

は、その一端を示す貴重な資料である。

また古曾部焼には、日常雑器だけでなく、抹茶や煎茶に用いる茶器などの製品もみられる。旧植田家住宅所蔵の《黄釉茶碗》はそのひとつで、底の陶印から四代信平の作と判断できる(写真3)。旧植田家住宅には、この他にも楽茶碗など、数多くの抹茶碗がのこされており、当時茶会などが開催されていたことが想像できる。

以上、四点の古曾部焼を紹介したが、まだまだある旧植田家住宅の陶磁器については、今後もさらに調査を続け、改めて紹介していきたい。



【写真3】《黄釉茶碗》(右:底の陶印部分)



でまえじゅぎょう 出前授業 & 「見」学

レポート



植田家の すゝめ



旧植田家住宅のスタッフが小学校へ出向き、地域の歴史や昔の暮らしなどについて講義する「出前授業」。昨年度は市内13校の小学校で計16回実施された。これまで本誌でも紹介したが、各学校にあわせた授業内容は、子どもたちだけでなく、地域に馴染みのない新任の先生や、忙しくて自分の勉強時間が持てない先生方の学習にも一役買っている。

一方、旧植田家住宅では、学校園からの見学もある。主に昔の生活や道具について学んだり、歴史に触れてもらえるように建物を案内している。そして幼稚園からの見学では、「おいしー」と評判の「かまどでご飯炊き」が人気だ。実際のかまどを使ってご飯を炊き、炊けるまでの間に建物を探検するという、まさに五感を使った見学を行なっている。

現在、見学は近隣地域からの申し出が多い。しかし、旧植田家住宅は電車でのアクセスが便利のため、JR沿線にある市内外の学校園はぜひ当施設を活用してほしい。なお、「出前授業」と「見学」は、例年、夏休み明けから年末・年始にピークを迎える。お申込みはお早めに。

出前授業の実施状況

2009年度(モデル実施) = 2校

- ◇「日本のすまいとくらし」(5年) [曙川]
- ◇「校区のむかし&河内木綿」(4年) [西山本]

2010年度 = 10校

- ◇「大和川の付け替え&校区のむかし」(4年) [亀井、北山本、志紀、高安西、西山本]
- ◇「河内木綿」(4年) [龍華]
- ◇「むかしのくらし&校区のむかし」(3年) [大正、永畑]
- ◇「むかしのくらし」(3年) [久宝寺、八尾]

2011年度 = 13校

- ◇「大和川の付け替え&校区のむかし」(4年) [桂、亀井、高安西、永畑、西山本、東山本、安中、龍華]
- ◇「河内木綿」(4年) [長池]
- ◇「むかしのくらし&校区のむかし」(3年) [桂、久宝寺、大正、永畑、美園、南山本]
- ◇「伝統野菜栽培」(6年) ※特別メニュー [永畑小・幼稚園合同]

学校園からの見学

2009年度 = 6校

- 幼稚園 [永畑、安中]
- 小学校 [柏原東、永畑、八尾、安中]

2010年度 = 4校

- 幼稚園 [志紀、永畑]
- 小学校 [永畑、龍華]

2011年度 = 8校

- 幼稚園 [志紀、永畑、安中]
- 小学校 [高美南、永畑、八尾、安中、龍華]



体育館で出前授業



かまどでご飯炊き

※要望に応じて、体験授業や畑指導などのプログラムも実施しています。

なにわの伝統野菜 栽培日記

No.13

イチゴと夏野菜

いよいよ収穫！



毛馬胡瓜



ワサワサと育つなにわの伝統野菜たち

【たくさん獲れたよ！】

五月に入ると弱々しかかったイチゴの苗も急激に大きくなった。長い冬眠から覚めたイチゴ達は、青々とした葉っぱを茂らせて、たくさんのお花を咲かせた。

さて、スタップが密かに楽しみにしていた例の「桃薫」(前回の栽培日記で紹介した、

薄いピンク色で桃の味と香りがする品種)が、見事に大粒の実をつけた。イヒヒー！それ、そこは役得。一番に味見をするスタップ達(一粒を四人で分けて頂きました)。:感動!!本当に桃!想像をはるかに超えていた。それから他の品種も次々と真っ赤な実をつけだした。

ゴールデンウィークも明け、いよいよ園児たちが楽しみにしていた収穫の日がきた。しかし少し残念なことに、この日の園児の数は一三九名。赤く熟れたイチゴの数は二九個。:そう、一〇個足りない。実の数はたくさんあっても、まだ赤くなりきれず、食べるには少し早いのだ。仕方がないので大きいものは半分にするので、何とか園児と先生の口に行き渡った。



一度には赤くならないイチゴ。食べ頃のものをもとまったら数だけ獲ってもらうのは、かなり難しい。イチゴ栽培初心者の方スタップは、今回の経験から、少し気が早いが来年に向けて何やら作戦があるそう。 (七月一日現在 Ⅱ苗二千株、収穫数九八粒)

【夏野菜、できました♪】

畑では、黒門越瓜・勝間南瓜・毛馬胡瓜が約二メートル半の高さの支柱にワサワサと絡みついている。一番最初に実をつけたのは、やはり勝間南瓜。雌花の数からみて、今年も「南瓜天国」(パラダイス)に間違いなさそう。 (今年も「南瓜天国」に間違いなさそう。)

そして昨年、異常なほど苦かった(ゴージャ並み)毛馬胡瓜も、六月の末にはうれいような悲しいような四七センチの長さまで成長した。これもまた「毒味」はスタップ達だ。今回も笑えるほど苦いか、それとも「普通にキュウリ」か…。

(夏野菜の収穫祭は七月二九日(日)予定)

一番最初に実をつけた勝間南瓜(こつまなんきん)。雌花の数からみて、今年も「南瓜天国」間違いなし!



けまきゅうり
長〜〜い毛馬胡瓜(47cm)のお味は?!

植松のまち・ひと

第七回

◇『植松史』聞き取りプロジェクト

現在、NPO法人HICALIでは、植松（JR八尾駅界隈）の昔のまちと生活の様子を伝える『植松史』の製作に取り組んでいる。製作にあたっては、『植松史』聞き取りプロジェクト（通称「聞きプロ」）を立ち上げ、随時、情報・資料の収集や聞き取りを行なっている。

『植松史』は、地域の思い出アルバムのように、当時の生活や暮らしぶりが分かる、その記憶がよみがえってくるようなものを目指している。また視覚的にも「楽しい」ものになるように計画中。そこで、なるべく多くの「当時（主に大正・昭和時代）の様

「むかしの写真(大正・昭和)を探しています」

子がかかる写真」を探している。例えば、

▽むかしの景色や建物写真が写っている

▽地域の行事・お祭り・遊びなどの風景

▽人物の写ったスナップ写真

▽家族で撮った写真

※周辺になつかしいものや風景が写っているもの大歓迎！

いるもの大歓迎！

もしお持ちの方があれば、どうかご協力を。

また写真だけでなく、エピソードや資料などもあわせて募集している。

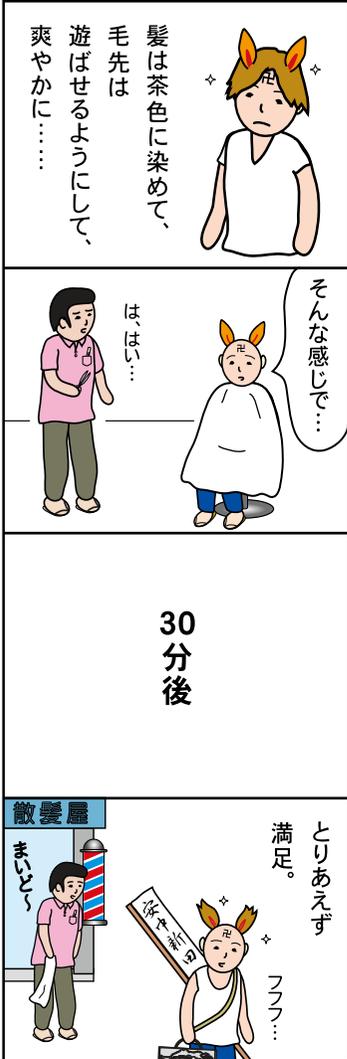
次代を担う子どもたちのためにも、現代

の記憶は「現在(いま)」記録しておかないといけない。こうした想いで始動した「聞きプロ」。その成果物である『植松史』の

完成を心待ちにさせていただきたい。

マンジークン

安富士 暁



むかしのまちなみ



遊び



地域の行事

昔の写真をさがしています。

大正～昭和時代

NPO法人HICALI(ひかり)では、植松・鶴巻地域(JR八尾駅南側界隈)の昔のまちとひとの様子を伝える『植松史』の製作に取り組んでいます。『植松史』は、地域の思い出アルバムのように、当時の生活や暮らしぶりが分かる、その記憶がよみがえってくるようなものを目指しています。また子どもたちに残して、伝えることが出来ればと考えています。

そこで、製作にあたり、当時の様子やわかる写真を探しています。たとえば、

- ・むかしの風景や建物・地域の行事・お祭り・遊び・交通
- ・人物の写ったスナップ写真、または家族で撮った写真(周辺になつかしいものや風景が写っているもの大歓迎)
- …など

もしお持ちの方があれば、どうかご協力ください。写真集のほか、当時の生活や暮らしぶりが分かるエピソードや資料などもありましたら、あわせてお寄せください。

連絡先：安中新田会館跡 旧植松家住宅
 〒672-992-5311
 ☎電話：072-992-5311
 E-mail：info@kyu-uedakejutaku.jp

安中新田会館跡 旧植松家住宅
 協賛 NPO法人HICALI

落穂拾い

― 今東光の董風 ― (七)

文・伊東健

平清盛を主人公に小説として書くことはなかった今東光ですが、京都の祇王寺を訪れた際にも清盛について述懐しています。

その死後は三人の女性に囲まれて、のほほんど多数の参観者を集めているのだから、世にも果報者とは清盛入道のことではあるまいか。僕はそんなことを考えると、僕の死後、何人の女性が僕の墓参りをしてくれるか、ちよつと淋しい。」

(昭和三十六年十二月十四日)

淡交社発行『古都の尼寺』より)

一体、清盛を憎む人があるだろうか。歴史に現れた清盛は確かに憎まれて好い人物なのに、何か彼につき纏うユーモラスな感じのために誰も彼を憎んだり嫌ったりしないのだ。高足駄を穿いて高平太と渾名された青年時代の彼は、背伸びしても威張りたがる滑稽な風貌が見える。そうかと思ふと朝廷を脅迫しようとするところへ重盛公が来ると、周章して鎧の上に素絹を着て胡摩化そうとしたり、兵庫の福原では夕陽を扇で招いてみたり、熱病のために水風呂が湯になって仕舞ったり、彼に関する挿話は何かなし微笑したくなるのだ。清盛の人徳であろうか。それとも人柄によるのだろうか。(中略)

一時に四人も尼僧にしてしまったくせに、

祇王寺には、清盛を真ん中にして、祇王・祇女・佛御前の四体の木像がまつられています。「平家物語」所収の「祇王」では、清盛の傲慢な権勢が生みだした悲劇として語られる挿話ですが、その寺に清盛自身がつまづられていることに着眼した東光独特の人物評ではないでしょうか。ちなみに引用文中、夕陽を扇で招いたというのは、広島県呉市音戸の瀬戸に清盛の日招き像があります。

世評や定説とは異なる、ユーモラスな清盛という意外な人間像を早くから見抜いていた東光が残した文章は、現代でも鮮度を保ち続けていて、小説家の凄味を感じさせてくれます。



清盛の日招き像から眺めた「音戸の瀬戸」の風景



清盛の日招き像
(広島県呉市)



呉市を中心に県内7カ所で行われているスタンプラリーのチェックポイントに設置された清盛のレプリカ像。(八尾市にある有名な看板屋さんが制作)

(写真・伊東健)

旧植田家住宅のご案内

今後の展示・企画

※毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5名限定)」
第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

展示

- ◎7月5日(木)～9月2日(日)
企画展「書画に見る
植田家の幕末・明治維新」
- ☆7月23日(月)～9月2日(日)
施設周辺写生作品展示(ギャラリー)
- ◎9月5日(水)～10月29日(月)
通常展「大和川付け替え関連展示」

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

企画

- ◎8月4日(土) 連続講座1(全3回)
「大和川付け替えと人々の暮らし③」
- ◎8月26日(日) 講演会
「大和川付け替えと河内平野」(当施設学芸員)
- ◎9月22日(土) 河内木綿まつり(八尾市立歴史民俗資料館主催)
・23日(日)
- ◎10月6日(土) 連続講座2(全3回)
「八尾に残る映像①」
- ◎10月14日(日) コンサート 八尾の音楽家「旧家でJAZZ」
- ◎10月28日(日) 旧家で楽しむ落語会

(詳しくはお問い合わせください)

休館日カレンダー

■ = 休館日

2012 / 8 August

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9 September

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

10 October

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

●開館時間: 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日: 火曜日・祝日の翌日・年末年始
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料: 一般200円(団体20人以上で100円)
高校・大学生100円(団体50円)
※中学生以下、身体障がい者手帳等の
所持者および介助者は無料

●お問い合わせ

〒581-0084 八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX: 072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。

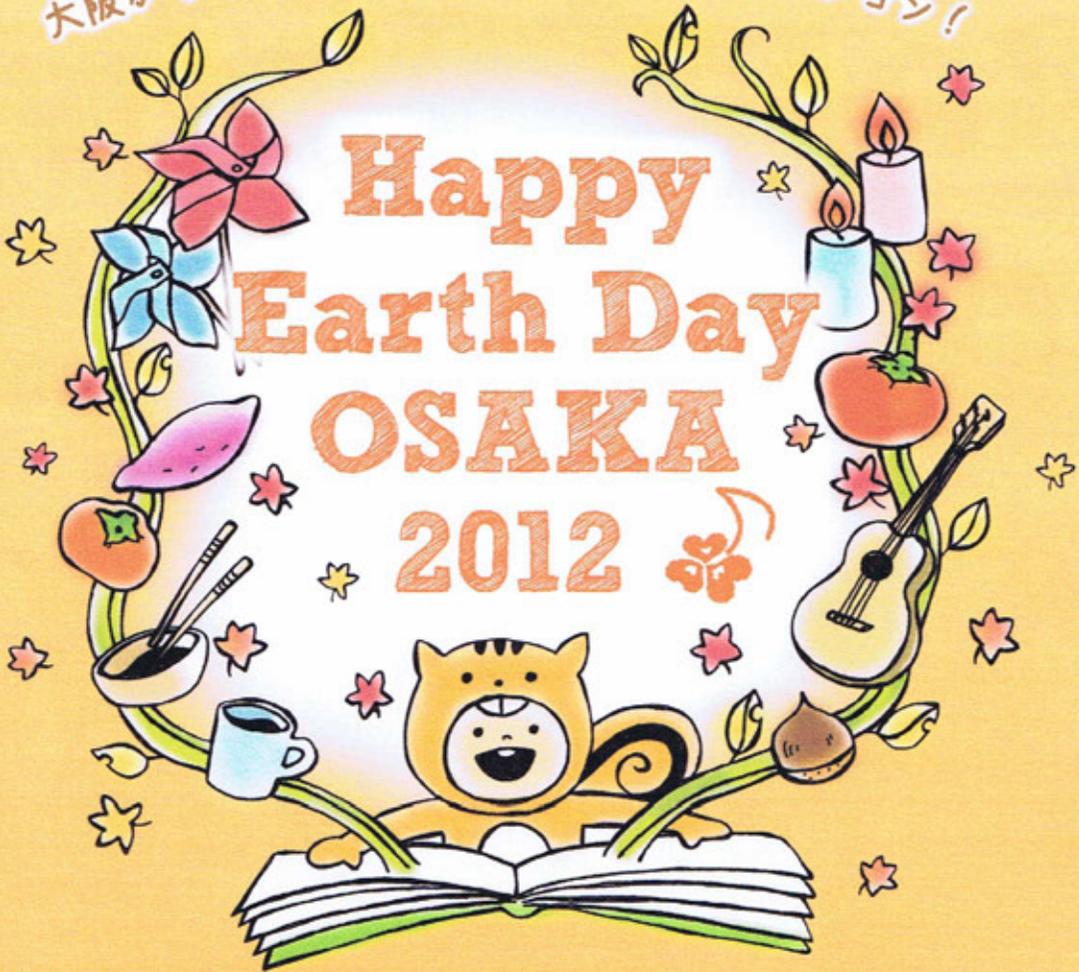


◇JR大和路線「八尾」駅下車。南出口より徒歩約3分

◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行
JR八尾駅前バス停下車。南東へ徒歩約6分

大阪から人と地球を考えるアースデイアクション!

Happy Earth Day OSAKA 2012



One Step for Action!

ハッピーアースデイ大阪2012秋

2012.10.20.sat | 21.sun

11:00-17:00

(キャンドルナイト 18:30まで)

10:00-16:00

場所 久宝寺緑地 修景広場

JR関西本線 大和路線「久宝寺」(北へ 徒歩10分)
近鉄大阪線「久宝寺口」(西へ 徒歩10分)



ハッピーアースデイ大阪に
「いいね!」を押してね!!



@HAPPY_EARTHDAY



info@happy-earthday-osaka.jp

主催/ハッピーアースデイ大阪2012実行委員会 共催/都市公園久宝寺緑地指定管理共同体 後援/大阪府、大阪市、東大阪市、八尾市、
社会福祉法人大阪府社会福祉協議会、社会福祉法人八尾市社会福祉協議会、八尾市教育委員会(予定)